

すくわくプログラム活動報告書

みらいく南大泉園

テーマ 「音（音を探索し、様々な音を楽しむ）」

1. テーマ設定の理由

2歳、3歳、4歳対象に園庭や公園で子どもたちが日常で触れる身近なものの音を感じ、保育者に伝えたり音を再現したり音に興味があった。様々な楽器や音の出るものに触れ、子どもたちが興味を持った楽器や作った楽器でおとをひょうげんしたり、演奏して楽しむ。

2. 活動スケジュール

10月「身の周りの音を感じる。」 園庭や公園で落ち葉や枝や石で音探しをしたり、飛行機や車などの音を感じる。
11月「身の回りの音を再現共有する」 見つけた音を紹介したり、言葉や音で表現する。
12月「新しい楽器に触れる」 楽器の名前を知ったり音を鳴らしてみる。
1月「手作り楽器づくり」 廃材などを使用して、個々に作りたい楽器を作り音を表現してみる。
2月「手作り楽器発表会」 子どもが作ったオリジナル楽器で歌に合わせて演奏して表現、共有する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境設定

（道具や素材）

葉っぱ、枝、石などの自然物。なかよしリズムスタンド（カスタネット、比べす、絵付きカスタネット、タンブリン、バードコール、メタルカバサ、エッグシェイカー、ギロ、シェイカー、トライアングル、ウッドマラカス、ウッドブロック、エナジーチャイム、フィンガーシンバル、ウッドアゴゴ）タイコ、マラカス、ベル、紙、お菓子の箱やプリンカップなどの廃材、画用紙、折り紙、輪ゴム、クレヨン、ペン、糊、テープ類

（環境の設定、活動内容）

・園庭や公園での自然を探索しながら、音に気付けるように保育者が声をかけたり、発見を共感した。

・初めての楽器を保育者が紹介し、見たり、触れたりして音を楽しめるような環境を作っ

た。

- ・日常でいつでも楽器に触れられ楽しめるような環境にした。
- ・廃材などを用意して、子どもたちが考えて手作りのイメージや表現が広がるようにした。

た。

- ・好きな楽器を選んで音を鳴らして歌ったり、演奏したりした。
- ・イメージを膨らましたり、まねをしたりしながら手作り楽器を作成、紹介、演奏、発表につながった。

（活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり）

園庭や公園での音の発見を保育者が一緒に落ち葉を手で握る、足でふむ、シャベルで土や砂をたたいたりする。園庭に転がり、飛行機や鳥の鳴き声をきいていた。「面白いね」「ガチャガチャ」「アーアー」（ピッピッ）など表現が様々で保育者に伝えていた。また、子どもが寝転んで音を聞いている様子に保育者も真似をすると、「音しないね」など別の城も保育者の伝えていた。

・新しい楽器には興味津々で、同じものがある友達と合わせてみたり、保育者が楽器の名称を伝えると「〇〇？」と聞き返し、その発音が面白い様子でクラスで楽器への興味がさらに広がっていった。

・2, 3歳児クラスは、楽器が常設してあったため、朝の異時間に鳴らして楽しむ様子が見られ、歌や踊りも表現する子がいた。

・気になった楽器をどうしたら再現できるか真剣に楽器を見ている子や、まねしながら自分の想像の楽器を作り上げていく子など様々な様子が見られ、作るときに保育者も一方的に教えるのではなく、「どうしたい？」など問いかけながら政策の支援を行っていた。

・楽器が出来上がると、鳴らしたり、歌ったりしているうちに、一緒に鳴らしたり、友達に貸したりしながら、一緒に演奏する楽しさを感じていたので、大きくなったね会で、楽器の紹介と演奏をしようかと保育者が聞くと、意欲的に楽しみながら気持ちが盛り上がって当日を迎えられた。

4、振り返り

・自然の中での音の発見は、子どもたちがいろんな視点や感じ方、表現をすることを改めて感じた。日々の中でも子どもが感じていることに保育者はさらに子どもの様子を感じられるようになっていきたいと思う。

・知らなかった楽器やいろいろな音を感じて、友達と共感することの楽しさを知った様子だった。

・楽器の作成するときの、子どもの注目する視点やアイデアがオリジナルのてづくりがっきにつながり、演奏を楽しむことができた。

・楽器は特別なものではなく、日常的に子どもの傍にあることの大切さを感じた。



みらいく南大泉園 大きくなったね会 2026年02月21日